

平成29年度からの茨城大学基盤教育について

1. はじめに

平成29年度から、全学教育改革の一環として、新しい基盤教育に移行する。その実施計画の具体化は、全学教育機構と全学教務委員会で急いでいるが、ここでは全学共通の認識にさせていただくため、基盤教育の意義と全体構成を示す。

(1) 教養教育を基盤教育へ展開する2つの目的

本学が教養教育を拡充して基盤教育へ展開する目的は2つである。その1つは、従来の教養教育の内容が多様化してきたことに対して、新たな区分（入門科目、共通基礎科目、リベラルアーツ科目）の設定による教育内容の明確化である。もう1つは、我が国の大学教育において、キャリア教育とグローバル教育を踏まえた教育体系が社会から求められていることへの対応である。これに対しては、リベラルアーツ科目群に「ライフデザイン」を設け、従来の「総合英語」を「プラクティカル・イングリッシュ(PE)」に拡充し、新たに「グローバル英語プログラム(GEP)」を設けて対応する計画である。

(2) 基盤教育に関するその後の強化ポイント

平成28年度に入り、基盤教育の内容をさらに明確にする必要性が生じた。それは、第3期中期目標計画で設定された項目、例えば、計画2（新たな共通教育の展開）、計画40（国際教育連携の展開）、計画41（国際教育体制）で、インターンシップや海外留学等の学外プログラムの強化が計画されたことである。そこで、本年に4月に2つのタスクフォースを立ち上げ、キャリア教育とグローバル教育に関する基本姿勢と推進方策を議論し、学外プログラムの在り方を含めて、審議結果を教育改革推進会議に答申した。本文書では、その内容も説明する。

2. ディプロマ・ポリシーと基盤教育の目標

本学では、次のようにディプロマ・ポリシー（卒業基準）を策定し、全学共通の基盤教育において、ディプロマ・ポリシーに定められた5つの能力を育成するために基盤教育の目標を定めた。

こうした基盤教育と各学部の専門教育が有効につながってディプロマ・ポリシーを実現することが、本学の教育の基本構造になっている。

■ディプロマ・ポリシー

茨城大学の教育目標は、変化の激しい 21 世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成することである。そのために茨城大学の学生が卒業する時に身につけているべき能力を、以下に示す5つの知識及び能力で構成されるディプロマ・ポリシー（卒業基準）として定める。これら5要素の比重は分野毎に異なるが、茨城大学を卒業する学生は、どの分野で学んだとしてもこれらの知識・能力を備えていることが必要である。

①（世界の俯瞰的理解）

自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解

②（専門分野の学力）

専門職業人としての知識・技能および専門分野における十分な見識

③（課題解決能力・コミュニケーション力）

グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、および実践的英語能力を含むコミュニケーション力

④（社会人としての姿勢）

社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性

⑤（地域活性化志向）

茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

■ 基盤教育の目標

茨城大学の基盤教育は、社会から求められているキャリア教育とグローバル教育の観点を含むものであり、ディプロマ・ポリシーで定めた5つの能力を全学共通に育成する。

「入門科目」と「共通基礎科目」では、ディプロマ・ポリシー③（課題解決能力・コミュニケーション力）および⑤（地域活性化志向）の能力をとりわけ育成する。「リベラルアーツ科目」はディプロマ・ポリシー①（世界の俯瞰的理解）、④（社会人としての姿勢）の能力をとりわけ育成する。また、専門教育と連携してディプロマ・ポリシー②（専門分野の学力）の能力育成を担う。

特に、大学教育における初年次教育の重要性に鑑み、学生が学修を続けるために必要な基礎的な知識と技能を修得させること、および教育改革の重点である学生が主体的に問題を発見し、解を見い出していく能動的学修への導き入れに力を注ぐ。

3. 基盤教育の科目区分と各科目の内容

（1）基盤教育の科目区分

従前の教養教育の科目区分を改編して、(1)入門科目、(2)共通基礎科目、(3)リベラルアーツ科目に分類し、各分類項目では、以下のような科目構成とその内容を設定する。なお、キャリア・グローバル教育の観点を強化する科目については*を付した。

■ 入門科目

大学入門ゼミ*

大学という自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を身につけ、自らの専門分野を学ぶことに必要な思考力・判断力・表現力を知り、主体的・意欲的な学習の習慣を持つようになることを目標とする。全学共通部分（5回）と学部独自部分で構成する。全学共通部分では、キャリアに関する基本的なことを含める。

茨城学*

茨城という地域を多方面から幅広く学び、地域活性化への意欲を喚起し、課題を協働して解決する力を得ることを目標とする。地域の理解という点では、本学の教育の独自性を示すものであり、キャリア教育とグローバル教育の観点でも土台と言える。

■ 共通基礎科目

プラクティカル・イングリッシュ*

グローバル化が進む中で、世界の多様な人々との協働を可能にする実践的英語能力を身につけることを目標とする。

情報リテラシー*

高度情報化社会に対応して、情報処理の基本技術を実践的に修得し、情報科学の基礎知識を得て、ネットワーク時代の情報発信と情報評価、情報セキュリティなどの情報に関する倫理を身につけることを目標とする。

心と体の健康*

自分の心身の状態への気づきと他者との関係の把握のために有効な基本的な知識・技能を身につけ、生涯にわたって健康的な生活を共同して営むための基盤を得ることを目標とする。

科学の基礎*

自然科学の知識と方法の基礎（人文・社会系のための統計学を含む）を学ぶことで、科学的探求のための思考力・判断力・表現力を身につける。また、「科学と倫理」においては、科学の知としての特徴や社会的機能、科学者の社会的役割・技術者倫理について学ぶことで、専門的職業人として活動するための倫理的な基盤を得ることを目標とする。

■ リベラルアーツ科目

○ 多文化理解

異文化コミュニケーション*

異なる文化についての多様な知識、また英語以外の言語（初修外国語）を学ぶことで、グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身につけることを目標とする。

ヒューマニティーズ

古来、多様な形で形成されてきた人間とその活動についての問いとそれへの答えの集積、およびその現代的姿について知識と俯瞰的な理解を得ることで、人間の知の多様性、奥深さを知ることを目標とする。

パフォーマンス&アート

スポーツ、音楽、美術、ダンス・演劇等として形づくられている多様な文化について体験的に学ぶことで、人間活動と文化の多様性、奥深さを感じ得ることを目標とする。

○ 自然と社会の広がり

自然・環境と人間

自然現象の多種多様性と背後の規則性・法則性を厳密に理解しようとする科学知への関心と、自然環境と人間の関わりについての総合的理解を持つことで、自然・環境への幅広い視野を得ることを目標とする。

グローバル化と人間社会*

グローバル化が進む社会の仕組みや様々な出来事について関心を持ち、それらについての社会科学的分析を幅広く知ること、現代社会に生きる人間に必要な問題意識を身につけることを目標とする。

○ キャリアを考える

ライフデザイン*

社会・地域の持続的な発展に貢献できる職業人として主体的に生きるために、必要な法や社会制度について知るとともに、男女共同参画、グローバル化、ダイバーシティ等の視点から社会の実情及びワーク・ライフ・バランス等の考え方を広く学び、倫理観や総合的判断力を身につけて、自らのキャリアデザインを可能にするための基盤を得ることを目標とする。

(2) 各学部の基盤教育科目の履修基準

平成27年度からの教育改革推進会議の議論を経て、全学教務委員会にて以下のとおり各学部の履修基準を定めた。

(単位)

科目区分		学部	人文社会 科学部	教育学部	理学部	工学部	農学部	備考
入門科目	大学入門ゼミ		2	2	2	2	2	
	茨城学		2	2	2	2	2	
	計		4	4	4	4	4	
共通基礎科目	プラクティカル ・イングリッシュ		6	6	6	6	6	
	情報リテラシー		2	2	2	2	2	
	心と体の健康		1	2	1	1	1	
	科学の基礎		1	1	2	6	3	
	計		10	11	11	15	12	
リベラル アーツ 科目	多文化理解							
	異文化コミュニケーション (初修外国語含む)		※3/ 5(4+1)	2	2	2	2	
	ヒューマニティーズ		※3/2	2	2	2	3	
	パフォーマンス&アート							
	自然と社会の広がり							
	自然・環境と人間		2	2	2	2	2	
	グローバル化と人間社会		※3/2	3	3	3	4	
	キャリアを考える							
	ライフデザイン		1	1	1	1	1	
	計		12	10	10	10	12	
合計		26	25	25	29	28		

※現代社会学科・法律経済学科/人間文化学科

4. 基盤教育へのキャリア教育とグローバル教育の観点の組み込み

(1) 背景

本学では、平成25年度末に、「企業が求める就職者・大学生の資質・能力と評価に関する調査」を行い、その中で、本学学部卒業生と大学院修了者の「資質・能力・職務遂行能力」の評価を調査した(318社)。その調査結果では、本学卒業生・修了生に対しては、社会人としての姿勢の評価が比較的高い:例えば、「社会のルール、マナーをよく守っている」(企業の肯定回答率、79.6%)、「リーダーの指示に従い、集団行動をとっている」(73.1%)、「約束したことは必ず守っている」(72.6%)等。一方で、「外国語による会話・文書作成等の運用ができる」(24.1%)や「手順、方法は、常に複数案を用意している」(37.8%)の観点での評価が低く、外国語コミュニケーション能力及び社会人としての汎用的能力を涵養する教育の強化で課題である。これらの点が、本学におけるキャリア教育とグローバル教育の強化をめざす出発点となった。

社会的に見ると、平成23年と24年の中教審答申での、「キャリア教育に関する方針の明確化と、教育課程内外を通じた体系的・総合的なキャリア教育の推進」が重要である。特に、平成24年の中教審答申、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では、予測困難な時代において、未来の形成に寄与し、社会をリードする大学への改革が力説されている。このような学士課程の質的転換の必要性と方向性は、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換であることが説かれた。この転換では、授業のための事前の準備、授業の受講や事後の展開を促す教育上の工夫に加えて、インターンシップやサービス・ラーニング¹、留学体験といった教室外学修プログラム等の提供が指摘されており、これらは本学の基盤教育でも重点をおいている。

グローバル化とは、「情報通信技術の進展、交通手段の発達による移動の容易化、市場の国際的な開放等により、人、物材、情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義があいまいになるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象」である(文部科学省・平成21年1月27日・国際教育交流政策懇談会)。このようなグローバル化の現象においては、知財や人材をめぐる国際競争が起こり、一方で、異文化との共存や国際協力が必要となることは容易に想像される。平成21年の国際教育交流政策懇談会では、「自己の能力を発揮し社会に貢献するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等」や「知識・技能が、陳腐化しないよう常に更新すること」の必要性を説いている。その上で、「生涯にわたって学ぶことが求められており、学校教育にはそのための重要な基盤づくりの役割も期待されている」と指摘した。そのような能力の必要性や学校教育の役割への期待は、キャリア教育の目標と同じものであり、グローバル教育とキャリア教育は連動するものであると言える。

(2) 基盤教育でのキャリア・グローバル教育の基本方針

以上に述べた、大学教育でのキャリア教育とグローバル教育の在り方を踏まえて、今年度当初より立ち上げた「インターンシップ検討タスクフォース」及び「グローバル教育センター設置検討タスクフォース」のなかで、それぞれ各学部及び関係各署の教職員により検討を行い、以下のような基本姿勢と推進方策を立てて、本学の基盤教育を強化することが答申された。そのため、新しい基盤教育は、こうした観点を取り込んで実施する必要がある。

¹ 教育活動の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム。

茨城大学基盤教育でのキャリア・グローバル教育の基本方針

(基本姿勢)

- ・学生の誰もが働くことが可能となり、その働きに個人的にも社会的にも意義を見だし、社会人・職業人として自立した生活が送れるように知識・能力を育む。
- ・地域から世界にわたって広がる多様な文化・社会のもとで、ダイバーシティの観点を理解し、多様な人々と協調して自律的に働く意識を育む。
- ・仕事のキャリアから人生のキャリアを考えることができるように、生涯にわたって主体的に学び考え続ける意識を育む。

(推進方策)

- ・キャンパス外で行う教育プログラムを産学官や海外協定校との連携のもとで拡充・整備し、社会や世界とのつながりを深めた学内外協働の教育体制を構築する。
- ・上記の学外教育プログラムは、全学教育機構と学部が連携して、カテゴリー化（期間；短期、中期、長期；内容；語学研修、文化研修、インターンシップ等；単位認定；有無）を行い、各プログラムの達成目標を明示して、学生の多様な学外学修志向を満たすように整備する。
- ・教員-学生間のコミュニケーションの活性化や、学生同士の知的な切磋琢磨を導く能動的学修の方法を開発して広く取り入れる。
- ・キャリア・グローバル教育の重要性を全ての教職員が理解し、学生のキャリア発達やグローバル志向を効果的に支える学生支援体制を、全学教育機構が中心になって構築する。
- ・実践的英語能力を含むコミュニケーション力を向上させる教育プログラムとして、グローバル英語プログラムに重点をおき、学生にとって魅力的で有意義なプログラムになるように、整備に努める。
- ・サステナビリティ学をはじめとして、世界的にも特色ある教育研究分野を展開し、海外協定大学とのネットワーク化を図って、国際的な学生の相互交流を推進する。
- ・以上の方策は、専門教育と連携して、入学から卒業までを見通した一貫した体系で提供する。

(3) 学内での学修と学外プログラムの結合

前述の「キャリア・グローバル教育の基本方針」の推進方策であげた「キャンパス外で行う教育プログラムを産学官や海外協定校との連携のもとで拡充・整備し、社会や世界とのつながりを深めた学内外協働の教育体制を構築する」に関しては、**図1**に示すような関係で表現される。すなわち、キャリア教育の観点で言えば、全学必修の共通科目である「大学入門ゼミ」（1年Q1(第1クォーター)+Q2、2単位；キャリア関係の基礎的項目を盛り込む）、「茨城学」（1年Q2+Q3、2単位）と「ライフデザイン」（3年Q1 or Q2、1単位）の履修、各学士課程の専門科目で開講しているインターンシップ科目等の履修、そして3年次の第3クォーター {internship off-campus program (iOP) クォーター} での学外プログラムの履修ないし自主的な学修活動からなる、学内外協働の教育体制である。なお、ここでの学外プログラムは、実社会の場を利用した能動的学修（アクティブ・ラーニング）として位置付けられ、本学のディプロマ・ポリシーを達成する上でも重要なものと言える。

科目群\学年 Quarter		1年				2年				3年				4年			
		Q1	Q2	Q3	Q4												
学内での学修																	
入門 科目	大学入門ゼミ																
	茨城学																
共通 基礎 科目	プラクティカルイングリッシュ																
	情報リテラシー																
	心と体の健康																
	科学の基礎																
リベ ラル アー ツ科 目	異文化コミュニケーション																
	ヒューマニティーズ/ パフォーマンス&アート																
グローバル英語プログラム	自然・環境と人間																
	グローバル化と人間社会																
	ライフデザイン																
学外での学修																	
国内	インターンシップ																
	ボランティア活動																
海外	インターンシップ																
	語学研修																
	文化研修																
	AIMS プログラム																
	長期留学																

矢印は、学内での学修と学外での学修を繰り返すことを示す。

*白抜きで示した科目はキャリア・グローバル教育の観点強化する（学内）か、現行で実施しているもの（学外）である。
 **学年部分のカラムで、濃い色の部分は全学共通（工学部Bコースは除く）を示し、薄い色の部分は、学部間で異なるか（学内での教育）、学生の自主的な履修に依存すること（学外での教育）を示す。

図 1. 基盤教育における共通科目の学年配置と学外学修との関係

5. スケジュール

平成 29 年度の基盤教育開設に向けて、以下の取組を行う。

時期	資料配付・シラバス作業	F D	質保証	学生向け
10月 月上旬	「茨城大学の基盤教育について」 配信			「2 学期クォーター制パンフレット」 配付
10月 月中旬	基盤科目シラバス作成依頼 「アクティブ・ラーニングガイド」 配付			10/12 2 学期クォーター制説明会 15:00-16:00
10月 月下旬		10/19 教育改革FD 第1回「茨城大学の 基盤教育がめざす もの」 13:00-14:00		10/26, 11/2, 9 プレ『ライフデザイン』講演会
11月 月上旬			11/8 大学教育再生加速プログラム (AP事業) キックオフイベント 13:30-17:00	15:00-17:00
11月 月中旬				11/16 学長学生懇談会 13:30-16:00
11月 月下旬		11/30 教育改革FD 第2回「アクティブ・ラーニングがめざすもの」 13:00-14:30(予定)	IR初級人材セミナー 第1回 (対象:学内外)	
12月	基盤科目シラバス提出 基盤科目シラバスチェック開始			
1月	基盤科目シラバス完成		質保証/IR/アセスメントセミナー(対象:学内外)	
2月			IR初級人材セミナー 第2回 (対象:学内外)	
3月		3/7 (予定) 教育改革FD第3回「教養教育と基盤教育」 (大教センターと共催)		
4月	2 学期クォーター制、基盤教育開始 「学生相談センター」、「キャリアセンター」、「グローバル教育センター」開設			
5月	全学教育機構&全学教職センター イベント 「はばたく！茨大生」(仮)			

〈 参 考 資 料 〉

以下、関係する資料を参考に示します。

基盤教育科目の構成

平成28年4月14日 教育研究評議会承認

科目群	科目区分	授業科目	開講形態	1科目あたり		授業形態	履修区分	開講時期等		
				授業回数	単位数					
入門科目	大学入門ゼミ	大学入門ゼミ	セメスター	15回	2単位	演習	必修	1年前期		
	茨城学	茨城学	(クォーター)	15回	2単位	講義	必修	1年第2-3Q(連続)		
共通基礎科目	プラクティカル・イングリッシュ(PE)	Integrated English I A・II A・III A	セメスター	30回	2単位	演習	必修	1年前期(選2回)		
		Integrated English I B・II B・III B	〃	15回	1単位	〃	〃	1年後期		
		Advanced English I A・I B・II A・II B・III A・III B・III C	〃	〃	〃	〃	選択必修	2年前・後期, 3年前期		
	情報リテラシー	情報リテラシー	セメスター	15回	2単位	講義	必修	1年前期		
	心と体の健康	身体活動	セメスター	15回	1単位	実技	必修	1・2年前・後期		
		健康の科学	クォーター	8回	1単位	講義	選択	1年		
	科学の基礎	統計学入門、科学入門	クォーター	8回	1単位	講義	選択必修	人文社会科・教育学部 1年第1・2Q		
		数学基礎、物理学基礎、化学基礎、生物学基礎	クォーター	8回	1単位	講義	選択必修 (工学部は選択)	理・工・農学部 1年第1・2Q		
		微積分学入門、力学入門	クォーター	15回	2単位	講義	選択	工学部 1年第1Q(選2回)		
		微積分学基礎、力学基礎	クォーター	15回	2単位	講義	選択必修	工学部 1年第2Q(選2回)		
微積分学、力と運動		セメスター	15回	2単位	講義	選択必修	工学部 1年前期			
科学と倫理A		クォーター	8回	1単位	講義	必修	理・農学部 2年第1・2Q			
科学と倫理B	セメスター	15回	2単位	講義	必修	工学部 2年前・後期				
多文化理解	異文化コミュニケーション	初修外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	セメスター	30回	2単位	演習	選択必修 (人間文化学系は必修)	人文社会科学部 14年前・後期(選2回)	
			フランス語Ⅰ・Ⅱ							
			中国語Ⅰ・Ⅱ							
			朝鮮語Ⅰ・Ⅱ							
			スペイン語Ⅰ・Ⅱ							
			ドイツ語入門							
			フランス語入門							
			中国語入門							
			朝鮮語入門							
			スペイン語入門							
			ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ							
			学術日本語Ⅰ・ⅡA・ⅡB・ⅡC							
	リベラルアーツ科目	人間とコミュニケーション	人間とコミュニケーション	クォーター	8回	1単位	講義	選択必修	14年第3Q～2(3)年	
			多文化共生							
			コミュニケーションと芸術文化							
			ヒューマニティーズ	思想・文学	クォーター	8回	1単位	講義	選択必修	14年第3Q～2(3)年
				歴史・考古学						
人間科学										
メディア文化										
パフォーマンス&アート	スポーツ文化	クォーター	8回	1単位	演習	選択必修	14年第3Q～2(3)年			
	音楽文化									
	美術文化									
	ダンス・演劇文化									
自然と社会の広がり	自然・環境と人間	物質と生命	クォーター	8回	1単位	講義	選択必修	14年第3Q～2(3)年		
		技術と社会								
		環境と人間								
	グローバル化と人間社会	法律・政治	クォーター	8回	1単位	講義	選択必修	14年第3Q～2(3)年		
		経済・経営								
日本国憲法										
公共社会										
グローバル・スタディーズ	グローバル・スタディーズ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	茶日本国憲法:2年(農学部のみ1年)		
キャリア教育	ライフデザイン	ライフデザイン	クォーター	8回	1単位	講義	必修	3年第1・2Q		

教育プログラムに係る全学共通科目

グローバル英語プログラム（G E P）

授業科目	単位数
English for Socializing	1
Reading & Discussion	1
Presentations in English	1
TOEIC & TOEFL	1
Academic Speaking	1
Academic Writing	1
Studies in Particular Fields	1
Studying Abroad	1
Bilingualism	1
Studies in Contemporary Japan	1

日本語教育プログラム

授業科目	単位数
日本語教育概論	2
多文化社会と日本語教育	2
日本語教授法Ⅰ	2
日本語教授法Ⅱ	2
日本語教授法演習	2
日本語教授法演習(海外)	2

C O C 地域志向教育プログラム

授業科目	単位数
5学部混合地域PBLⅠ	2
5学部混合地域PBLⅡ	2
5学部混合地域PBLⅢ	2

A I M S プログラム

授業科目	単位数
地域サステイナビリティ学概論	1
環境共生論	2
環境保全型農業論	2
フィールド実践演習	1
環境変動適応・防災論	2
地域環境管理論	2
地域サステイナビリティ学特別講義Ⅰ	1
地域サステイナビリティ学特別講義Ⅱ	1
地域サステイナビリティ学ゼミナール	1
地域サステイナビリティ学ラボワーク	2

※AIMSプログラムに係る科目について追加予定あり。

平成29年度茨城大学学年暦

茨城大学では、平成29年度から2学期クォーター制を導入します。

事 項	月 日	学 生 関 係 行 事
学 年 開 始	4月 1日 (土)	○新入生オリエンテーション ・各学部履修ガイダンス等 4月4日(火)～5日(水)
入 学 式	4月 6日 (木)	・留学生ガイダンス 4月 日 ()
前学期授業開始 第1クォーター授業開始	4月 7日 (金)	・新入生定期健康診断(工学部Bコースを除く) 4月 日 ()～ 日 ()
創 立 記 念 日	5月31日(水) (授業実施)	○保護者説明会(未定) 4月6日(木)
第1クォーター授業終了	6月 8日 (木)	○各学部履修ガイダンス等(2年次以上) ・水戸地区 4月 日 ()～ 日 () ・日立地区 4月 日 () (ただし、編入学生は4月 日 ())
第2クォーター授業開始	6月 9日 (金)	・阿見地区 4月3日(月)
前学期授業終了 第2クォーター授業終了	8月10日(木)	○定期健康診断 ・人文学部、教育学部、理学部(水戸地区) [4年次] 4月 日 ()～ 日 () [2、3年次] 4月 日 ()～ 日 ()
夏 季 休 業	{ 8月12日(土) ? } 9月20日(水)	・工学部(日立地区) 4月 日 ()～ 日 () ・農学部(阿見地区) 4月5日(水)、6日(木)午前のみ
後学期開始	9月21日(木)	
後学期授業開始 第3クォーター授業開始	9月28日(木)	
第3クォーター授業終了	11月30日(木)	○新歓祭 4月8日(土)
第4クォーター授業開始	12月 1日 (金)	○大学祭 ・茨苑祭 11月11日(土)～12日(日) ・こうかく祭 5月末(予定) ・紺掛祭(仮) 10月28日(土)～29日(日)
冬 季 休 業	{ 12月27日(水) ? } 1月 5日 (金)	
授 業 開 始	1月 9日 (火)	
後学期授業終了 第4クォーター授業終了	2月23日(金)	
春 季 休 業	{ 2月24日(土) ? } 3月31日(土)	
卒 業 式	3月23日(金)	
学 年 終 了	3月31日(土)	

＜2学期クォーター制とは＞
これまで同様、前学期・後学期それぞれ16週
(15週+定期試験)にわたって授業を実施する方式(セメスター制)と、各学期をさらに半分に分け、8週で授業を完結する方式(クォーター制)を併用して授業を開講するものです。

(注) 1. 5月 2日(火)は、「振替木曜日」として木曜日の時間割で授業を行う。
2. 5月29日(月)は、「振替水曜日」として水曜日の時間割で授業を行う。
3. 7月14日(金)は、「振替月曜日」として月曜日の時間割で授業を行う。
4. 11月 2日(木)は、「振替金曜日」として金曜日の時間割で授業を行う。
5. 12月19日(火)は、「振替金曜日」として金曜日の時間割で授業を行う。

(前学期)

平成29年度 茨城大学学年暦

クォーター制導入

日	月			火			水			木			金			土	事項
	週1 (講義1単位)	週2 (連続)	セメスター 開講														
4月	2	3		4	ガイダンス		5	ガイダンス		6	入学式		7	①	①	1	4/1 学年開始・ 前学期開始 4/4, 5 ガイダンス 4/6 入学式
	9	10 ①	①	11	①	①	12	①	①	13	①	①	14	②	②	8	
	16	17 ②	②	18	②	②	19	②	②	20	②	②	21	③	③	15	
	23	24 ③	③	25	③	③	26	③	③	27	③	③	28	④	④	22	
	30															29	
5月		1 ④	④	2	④	④	3			4			5			6	5/2 振替水曜日
	7	8 ⑤	⑤	9	⑤	⑤	10	④	④	11	⑤	⑤	12	⑤	⑤	13	
	14	15 ⑥	⑥	16	⑥	⑥	17	⑤	⑤	18	⑥	⑥	19	⑥	⑥	20	
	21	22 ⑦	⑦	23	⑦	⑦	24	⑥	⑥	25	⑦	⑦	26	⑦	⑦	27	
	28	29 ⑦	⑦	30	⑦	⑦	31	予備日									5/29 振替水曜日
6月										1	予備日		2	⑧	⑧	3	
	4	5 ⑧	⑧	6	⑧	⑧	7	⑧	⑧	8	⑧	⑧	9	①	①	10	6/10 予備日
	11	12 ①	①	13	①	①	14	①	①	15	①	①	16	②	②	17	
	18	19 ②	②	20	②	②	21	②	②	22	②	②	23	③	③	24	6/24 TOEIC一斉テスト (受検対象:2年次)
	25	26 ③	③	27	③	③	28	③	③	29	③	③	30	④	④		
7月																1	
	2	3 ④	④	4	④	④	5	④	④	6	④	④	7	⑤	⑤	8	7/8 TOEIC一斉テスト (予備日)
	9	10 ⑤	⑤	11	⑤	⑤	12	⑤	⑤	13	⑤	⑤	14	⑥	⑥	15	
	16	17		18	⑥	⑥	19	⑥	⑥	20	⑥	⑥	21	⑥	⑥	22	
	23	24 ⑦	⑦	25	⑦	⑦	26	⑦	⑦	27	⑦	⑦	28	⑦	⑦	29	
	30	31	予備日														
8月				1	予備日		2	⑧	⑧	3	⑧	⑧	4	⑧	⑧	5	
	6	7 ⑧	⑧	8	⑧	⑧	9	予備日		10	予備日		11			12	8/12~9/20 夏季休業
	13	14		15			16			17			18			19	
	20	21		22			23			24			25			26	
	27	28		29			30			31							
9月													1			2	
	3	4		5			6			7			8			9	
	10	11		12			13			14			15			16	
	17	18		19			20										9/20 前学期終了

(後学期)

平成29年度 茨城大学学年暦

クォーター制導入

日	月			火			水			木			金			土	事項						
	週1 (講義1単位)	週2 (連続)	セメスター 開講																				
9月										21			22		23	9/21 後学期開始							
	24	25		26			27			28	①	②	①	29	①	②	①	30	9/28 授業開始				
10月	1	2	①	②	①	3	①	②	①	4	①	②	①	5	②	③	②	6	②	③	②	7	
	8	9				10	②	③	②	11	②	③	②	12	③	④	③	13	③	④	③	14	
	15	16	②	③	②	17	③	④	③	18	③	④	③	19	④	⑤	④	20	④	⑤	④	21	
	22	23	③	④	③	24	④	⑤	④	25	④	⑤	④	26	⑤	⑥	⑤	27	⑤	⑥	⑤	28	10/27 (仮) 御耕祭準備 (阿見地区休講) ※10/27 水戸・日立地区 は授業実施
	29	30	④	⑤	④	31	⑤	⑥	⑤														
11月							1	⑤	⑥	⑤	2	⑥	⑦	⑥	3			4					11/2 振替金曜日 11/2 阿見地区は5回目 (連続は⑨、⑩回目)
	5	6	⑤	⑥	⑤	7	⑥	⑦	⑥	8	⑥	⑦	⑥	9	⑥	⑦	⑥	10	⑥	⑦	⑥	11	11/10 茨城祭準備 (水戸地区休講)
	12	13	⑥	⑦	⑥	14	⑦	⑧	⑦	15	⑦	⑧	⑦	16	⑦	⑧	⑦	17	⑦	⑧	⑦	18	11/10 日立地区予備日 ※11/10 阿見地区は授業 実施
	19	20	⑦	⑧	⑦	21	予備日			22	予備日			23				24	⑧	⑨	⑧	25	※11/10 阿見地区は授業 実施
	26	27	⑧	⑨	⑧	28	⑧	⑨	⑧	29	⑧	⑨	⑧	30	⑧	⑨	⑧						11/25 (仮) 推薦入試
12月													1	①	②	①	2						12/2 予備日
	3	4	①	②	①	5	①	②	①	6	①	②	①	7	①	②	①	8	②	③	②	9	12/9 TOEIC一斉テスト (受検対象:1,2年次)
	10	11	②	③	②	12	②	③	②	13	②	③	②	14	②	③	②	15	③	④	③	16	
	17	18	③	④	③	19	③	④	③	20	③	④	③	21	③	④	③	22	④	⑤	④	23	12/19 振替金曜日 12/23 TOEIC一斉テスト (予備日)
	24	25	④	⑤	④	26	④	⑤	④	27				28				29				30	12/26 授業終了 12/27~1/5 冬季休業
	31																						
1月		1				2				3			4		5		6						1/9 授業開始
	7	8				9	④	⑤	④	10	④	⑤	④	11	④	⑤	④	12				13	1/12 センター試験準備(臨時休講) 1/13,14 センター試験
	14	15	⑤	⑥	⑤	16	⑤	⑥	⑤	17	⑤	⑥	⑤	18	⑤	⑥	⑤	19	⑥	⑦	⑥	20	
	21	22	⑥	⑦	⑥	23	⑥	⑦	⑥	24	⑥	⑦	⑥	25	⑥	⑦	⑥	26	⑦	⑧	⑦	27	
	28	29	⑦	⑧	⑦	30	⑦	⑧	⑦	31	⑦	⑧	⑦										
2月													1	⑦	⑧	⑦	2	予備日	3				2/3 予備日
	4	5	⑧	⑨	⑧	6	予備日			7			8	⑧	⑨	⑧	9	⑧	⑨	⑧	10	2/7 (仮) 私費外国人留 学生入試(臨時休講)	
	11	12				13	⑧	⑨	⑧	14	⑧	⑨	⑧	15	予備日		16				17	2/10 予備日	
	18	19				20				21			22				23				24	2/23 後学期授業終了 2/24~3/31 春季休業	
	25	26				27				28													
3月													1				2						
	4	5				6				7			8				9				10		
	11	12				13				14			15				16				17		
	18	19				20				21			22				23				24	3/23 卒業式	
	25	26				27				28			29				30				31	3/31 学年終了	

2 学期クォーター制の導入及び授業開始・終了時間の変更

全学の教育改革を遂行するにあたり、平成29年度から全学的に2 学期クォーター制を導入する。本学の2 学期クォーター制は、従来の前学期、後学期の2 学期制の枠組みを残しつつ、各学期をさらに半分に分け、1年間を4つの期間（クォーター）に分けて授業を実施するものである。

2 学期クォーター制の年間授業スケジュール

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
前学期						後学期					
ガイ ダン ス 等	前学期 授業期間		前学期 授業期間		学外学修にお ける活動期間 (夏季休業)	後学期 授業期間		後学期 授業期間		学外学修にお ける活動期間 (春季休業)	
	第1クォーター 授業期間		第2クォーター 授業期間			第3クォーター 授業期間		第4クォーター 授業期間			

授業は主に、週2回又は1回実施して1クォーターで完結するもの、週1回で2クォーターを通して実施するものがある。集中的に実施したほうが、教育効果が高い授業は週2回、継続的に一定期間実施したほうが、教育効果が高い授業は週1回など、その授業の特性に応じて組み合わせて実施する。

基盤教育の内、リベラルアーツ科目（初修外国語を除く）は、週1回（8回1単位）で実施される。

また、3年次の第3クォーターをiOPクォーター（Internship Off-campus Program quarter：仮称）としている。iOPクォーターには、なるべく必修科目を開講せず、この機会を利用して海外留学やインターンシップ、ボランティア活動などに積極的に参加できる環境を整え、大学教育で求められる、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材を養成する。

さらに、3地区の効率的な連携のため、これまで水戸地区・阿見地区と日立地区とで異なっていた授業時間を見直し、平成29年度から以下のとおり3地区の授業時間を統一する。

講時	地区	現 行		平成29年度～
		水戸・阿見地区	日立地区	
1講時		8:50～10:20	8:50～10:20	8:40～10:10
2講時		10:30～12:00	10:30～12:00	10:20～11:50
昼休み		12:00～13:00	12:00～12:40	11:50～12:40
3講時		13:00～14:30	12:40～14:10	12:40～14:10
4講時		14:40～16:10	14:20～15:50	14:20～15:50
5講時		16:20～17:50	16:00～17:30	16:00～17:30
6講時（Bコース）		—	17:35～19:05	17:35～19:05
7講時（Bコース）		—	19:10～20:40	19:10～20:40



平成29年度 START 2学期クォーター制

授業時間
変更

2学期クォーター制とは

これまでの前学期・後学期それぞれ16週（15週＋定期試験）にわたって授業を実施する方式（セメスター制）と、各学期をさらに半分に分け、8週で授業を完結する方式（クォーター制）を併用して授業を開講します。

卒業時期など学籍に関することやGPAの算出時期、授業料の取扱いなどは今までどおりです。

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
前学期												後学期											
ガイ ダ ン ス 等	前学期授業期間						学外等における 各種活動期間 (夏季休業)	後学期授業期間						学外等における 各種活動期間 (春季休業)									
	第1クォーター 授業期間			第2クォーター 授業期間				第3クォーター 授業期間			第4クォーター 授業期間												

※ 後学期開始は9月下旬から

授業開始・終了時刻が変わります

平成29年度から、キャンパス間で異なっていた授業時間を統一します。

これにより、例えば、異なったキャンパスの授業をメディア配信することが行いやすくなって、再履修しやすくなる、履修科目の選択肢が増えるなどのメリットが生じます。

現行	水戸・阿見地区	日立地区
1 講時	8:50~10:20	8:50~10:20
2 講時	10:30~12:00	10:30~12:00
昼休み	12:00~13:00	12:00~12:40
3 講時	13:00~14:30	12:40~14:10
4 講時	14:40~16:10	14:20~15:50
5 講時	16:20~17:50	16:00~17:30
6 講時 (Bコース)	—	17:35~19:05
7 講時 (Bコース)	—	19:10~20:40



平成29年度から3地区共通
8:40~10:10
10:20~11:50
11:50~12:40
12:40~14:10
14:20~15:50
16:00~17:30
17:35~19:05
19:10~20:40

クォーター制の導入の趣旨

社会から求められる「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力」を持った人材を養成するために、留学や長期インターンシップなど学外での学びを促進すること、短期間で集中的に授業を実施することも可能にして各授業科目における教育効果の向上を図ること、8週完結の授業科目の設定で履修の選択肢を増やすことなどを目的として導入するものです。

クォーター制導入後の主な授業開講パターン

授業回数／週	授業期間	単 位 (一般的な講義の場合)
1回	8週 (7.5回授業＋試験)	1単位
2回	8週 (15回授業＋試験)	2単位
2回 (2コマ連続)	8週 (15回授業＋試験)	2単位
1回	16週 (15回授業＋試験)	2単位

2学期クォーター制では、授業開講パターンは8週完結のパターンと、これまでと同じ15週＋試験のパターンとに分かれます。

また、8週完結のパターンには、週1コマ実施、週2コマを異なる曜日で実施、週2コマを連続で実施の3つのパターンがあります。

現在のパターンの授業

- 上記のパターンを各々の授業に応じて、教育効果により併用。
- 実験・実習・実技及び一部の演習授業の単位数は、講義の半数。

学年暦も変更になります

2学期クォーター制導入により、学年暦は主に以下の点が変わります。

- 授業を行わない日の変更（創立記念日の授業実施など）
- 後学期開始の前倒し（これまでの10月1日開始から、9月下旬開始へ）

※ 平成29年度の各学部ガイダンス等で配布される学年暦を必ず確認してください。

クォーター制導入後も変わらないこと

2学期クォーター制においても、授業の実施に関わる以外、これまでと（大きくは）変わりません。

例えば・・・

履修登録期間（前学期・後学期で登録します。必要に応じて各クォーターでも修正できます。）

そのほか・・・

学籍の取扱い（休学等の取扱いなど身分異動を含む）

授業料の取扱い

卒業の時期

授業料免除申請時期

奨学金申請時期

など・・・

※ 平成29年度の各学部ガイダンス等での各種配布資料・学生掲示板等の案内を必ず確認してください。

平成29年度入学生
より

基盤教育科目
START

平成29年度の新入学生より、教養科目に替わる新たな共通教育「基盤教育科目」がスタートします。

平成28年度以前の入学生は従来どおり「教養科目」を履修します。

※ 一部基盤教育科目を振替して履修する科目もあります。

科目選択や履修登録の際は注意しましょう。